

聖餐式解説

聖餐式は教会の中心的な礼拝です。イエス・キリストの最後の晩餐を継承・再現します。また、将来に約束されている神の国での宴の前祝いです。

聖公会の聖餐式は、古い伝統的な礼拝の形と流れを保った典礼的（儀式的）礼拝です。一連の順序をとおして、イエス・キリストの臨在の深みに入って行き、陪餐においてキリストの命をいただきます。

パンとぶどう酒を聖別するのは主教または司祭ですが、会衆全員が参加して主イエスの出来事をドラマとして共通体験するのが聖餐式です。

聖餐式の流れは次のようです

（準備の式）

第Ⅰ部 み言葉の部

参入／キリエ／大栄光の歌／特祷／み言葉（旧約聖書、詩編、使徒書、福音書）／説教／ニケヤ信経／代祷／懺悔

第Ⅱ部 聖餐の部

平和の挨拶／奉献／感謝聖別／主の祈り／神の小羊／陪餐／感謝／祝福・派遣

（準備）これから特別の世界（イエス・キリストが臨在される世界）に入っていきます。祈って備えます。主イエスと深く出会うことを願い求めます。

参入 主イエス・キリストをまごころから呼び求めます。
一方、主イエスは私たちのために食卓を用意して
私たちを迎えてくださいます。

キリエ キリエ（主よ）・エレイソン（憐れんでくださ
い）。主の憐れみを願い求めます。憐れみはイエス
の心とはらわたに沸き立つ愛です。

大栄光の歌 ベツレヘムの野原に響きわたる天使の合唱
に私たちも参加して、神を賛美します。

特祷 司祭 主は皆さんとともに
会衆 また、あなたとともに
この<呼びかけ>と<応答>が大切。これがはっ
きりすると礼拝は生きた力強いものとなります。平
和の挨拶、感謝聖別の最初、派遣なども同様です。

み言葉 聖書からの語りかけに耳を傾けます。聖書日課
は3年周期で、聖書の広い世界に触れるように工夫
されています。降臨節から新しい年が始まります。
福音書は特に主イエスご自身の言葉と行動に出会う
ので、福音書の方に身を向けます。

説教 説教者の意見発表の場ではなく、聖書の響きがは
っきり聞こえるようになることが目的です。神から
み言葉が与えられるように、説教者のみならず会衆
の祈りが必要です。

・み言葉（神からの語りかけ）に対する私たちの側から

の応答が「ニケヤ信経」「代祷」「懺悔」です。

ニケヤ信経 私たちの信仰を神に向かって告白します。

信経はキリスト教信仰のエッセンスです。

父と子と聖霊の三位一体の神への信仰です。

1句1句に神の愛と救いの業がこめられています。

代祷 イエス・キリストが私たちのために祈ってくださった（祭司の働き）ように、私たちも世界、教会、隣人のために祈ります。大祭司キリストの業に、私たちも小さな祭司として加わります。

懺悔 心を痛めつつ自分の罪を神の前に告白します。急がないようにします。司祭は執り成しの祈りをします。赦しを受けることから新しい人生が始まります。

——ここから第Ⅱ部「聖餐の部」です——

平和の挨拶 復活のイエスが「平和があなたがたと共にあるように」と呼びかけてくださる（ヨハネ 20:19）のを受けて、わたしたちも互いに呼びかけ合います。

奉献 イエス・キリストがご自身を神と人のために献げられたこと（自己奉献）を思い、私たちも自分を神にささげ（ゆだね）ます。パンとぶどう酒はわたしたちの生活、働き、いのちのシンボルです。

- ・ここで司祭（執事）はイエスにならって（ルカ 22:27）食卓の用意をします。

感謝聖別 聖餐式の祈りの中心部分。「聖なるかな」(サントゥス)は、預言者イザヤが経験した天使セラフィムの合唱です(イザヤ 6:3)。私たちも神の臨在の前に、畏れつつも神を愛して賛美に加わります。この後、二つの重要な内容が祈られます。「**聖霊を求める祈り**」(エピクレシス=祈求)、と「**主イエスの聖餐制定の言葉**」(アナムネーシス=想起)です。主イエスの制定と聖霊の働きによって、パンとぶどう酒は主イエスの命としていただくものとなります。

主の祈り イエスご自身の祈りに私たちも加わります。

神の小羊 洗礼者ヨハネがイエスを見て思わず口にした言葉(ヨハネ 1:29)。罪なき神の小羊イエスは、私たちの弱さと罪をご自分の身に引き受け、わたしたちの破れと傷を癒やしてくださいます。

陪餐 私たちはイエスの愛の命を受けます。それは私の中に入り、私の中に浸透し、私の命となります。イエスが私の中に生きてくださいます。

感謝 丁寧にゆっくり唱えることによって、聖餐を受けたことの意味が私たちの中で深まります。

祝福・派遣 神は、司祭をとおして私たちを祝福してくださいます。神は私たちを世界に派遣されます——天には栄光、地には平和が実現するように。しっかり立ち上がって唱和します。(司祭 井田 泉)